

1月例会「初春・食べられる野草探検」報告

令和2年1月26日(日)午前10時~12時30分。立田山野外保育センター雑草の森。参加者43名(うち会員19名)。雑草の森との共催。前日の雨も早朝に上がり、予定通り2月例会を開催できました。

始まりの会で藤井会長のあいさつ、緒方センター長のあいさつの後、紙芝居「立田山の春を待つ生き物たち」「春の七草のおはなし」を見て、小鳥やモグラ、樹木の冬芽、植物のロゼットなど、厳しい寒さの中でたくましく暮らす生き物たちの姿を勉強。七草を食べる正月行事の由来も学びます。ちびっ子達から「面白くない。もう終わりでしょ?」と声が聞こえます。ちびっ子達は正直です。

でも紙芝居は終わりません。続いて紙芝居「立田山の春の食べられる植物」で、ノビル、ヨモギ、ナズナ、ハコベ、タンポポなどのこれから観察する草花、採集して来て欲しい野草の勉強をしました。「去年は食べられる野草13種を採集し、ダイコン、カブを加えて15種入りの七草がゆを食べました。今年も15種入りの七草がゆが食べられるよう野草探しをがんばりましょう」と聞き、やっとちびっ子達の眼にも輝きが戻ります。

10時30分には雨もあがり、参加者はいざ七草探検(野草採集)に出発です

センターを出て市民農園の横を通り、立田山憩の森を抜け、サクラ池まで、濡れた道路で滑らないように注意しながら「食べられる野草」を探します。大人もちびっ子達も、ヨモギやノビル、スイバなどを見つめるたびに大喜びです。なんとキクラゲやホコリタケ、カワラタケなどのキノコも発見。サクラ池上流のサクラの冬芽を観察し、湿地ではセリを探します。セリやカラスノエンドウなどをゲットしました。

約1時間後、ちびっ子達は採集した野草を入れたビニール袋を携えてセンターに帰着。さっそく自然観察指導員に採集した野草の名前を教えてください。「これはノビル、食べられます」「これはハコベ、食べられます」と聞いて嬉しそうです。「これはオドリコソウ、食べない方がいいでしょう」とちょっとガッカリ。採集した野草は、少しずつ七草がゆの具材として提供。一部は標本として、名前を書いた紙と一緒に机に並べて皆に見てもらいます。標本を熱心に写真撮影するお父さんやお母さんの姿が印象的でした。

待ちに待った七草がゆの試食タイム。厨房に集まり、スタッフから七草がゆに入った野草の「発表」が始まります。「今日の採集野草は、①セリ、②ナズナ、③ノハコグサ、④ハコベ、⑤オニタピラコ、⑥コオニタピラコ、⑦ノビル、⑧タネツケバナ、⑨ミツバ、⑩オオバコ、⑪スイバ、⑫ヤエムグラ、⑬カラスノエンドウ、⑭キランソウ、⑮スミレ、⑯ツワブキ、⑰キクラゲの17種。これにスタッフが持参した、⑱ダイコン、⑲カブ、⑳サツマイモが入って20種入りの七草がゆ。昨年に比べ大幅アップです」と聞いて、参加者から「おお〜」という歓声と拍手が沸き上がりました。

参加者は一列に並び七草がゆを注いでもらいます。みんな「美味しい」とニコニコ顔で「早春の恵み」を味わいます。3杯もおかわりするちびっ子もいました。スタッフの「味付けは塩だけです」との説明に「お塩だけでもすごく美味しい」とお母さんはビックリ。

正午過ぎ、冬を生き抜く立田山の「野草たち」に元気を分けてもらいながら、今年最初の月例会は無事に終了。暖冬とはいえまだまだ寒い日が続きますが、春はもうそこまで。今年もどうぞよろしくお願ひします。

最後になりましたが、調理をお手伝いいただいた野外保育センター職員の錦野さんにお礼申し上げます。

